

武蔵野日記

(5月25日～6月23日)

発行人 社会福祉法人武蔵野
武蔵野市吉祥寺北町4-11-16
0422(54)7666

7月1日現在 職員総数 307名

生まれるもの

統括施設長 高澤 勝美

書棚で通勤のお供を探していたら、古く傷んだ表紙の「シュダールタ」が微笑んでいた。ヘッセの代表作のひとつで、お釈迦さんの出家以前の名前を借りて、求道者の悟りの境地に至るまでの人生を描いている。

思春期からこの年になるまで折々に読み返し、その時の私を助け育ててくれた一冊だ。高校の頃には、宗教に惹かれ多くの教義にふれ、人と心の問題を深く考えるきっかけになった。社会に出た時にも、家族を持った時にも、社会的な責任を持った時にも、繰り返し読んだ。還暦を前に読み返してみると、青年シュダールタが家族を捨て出家する時の父親や亡くなる前の遊女カマーラ、導師となる川渡しの老人など主人公を取り囲む先達の言動がより深く心にしみる。そこには、齢を重ねた者だからこそ生まれるみずみずしい命の力がある。

私の母は 95 歳で、その妹は 90 歳で自転車に乗ってやってくる。先日、一緒にお茶のみしている時に「ねーちゃんの髪の毛、黒くなってるし、増えたね。」といいだした。母は長く独り暮らしをしていたが、この 2 年ほど一緒に生活して、確かに食生活も豊かになった。そういえば、ほほも色つやが良く、体重も増えているようだ。一緒に生活しているものとして（介護者としても）、褒めてもらえたようで、ちょっと嬉しい。

この姉妹は、元気だ。好き嫌いなく良く食べ、よく笑う。同じ会話を繰り返してはいるが、いろいろな人の話の身の上ばなしに精通している。人の悪口は言わないタイプなので、街でもよく声をかけられる。一緒にいると、人生は悪くないと思える。きっと、良いことも悪いこともあったろうに、まるで気にしていないかのようだ。小さな洪水で飢饉が起きる貧しい百姓の生まれだからこそ、身体が動くかぎり役に立とうとする思いは強い。この年寄りたちの身体には、止まらない小さなエンジンが埋め込まれている。

雨が上がると、一気に草が伸びる。母は気が向くと、日に何度でも庭の草むしりをする。できる家事は、洗濯たみと草むしりぐらいなのだから、体調がよければ小一時間しゃがみこんで草むしりをしている。

先日、通りかかったお年寄りが母に向かって深々と頭を下げている。拝むように敬い、いたく感心し、母を褒め、一緒に喜んでいた。母の入院や骨折の事を知っているご近所さんなので、草むしりができる元気が、その方の心の中に感動を生み出した。95 歳だからこそ、生み出せるものがある。存在や振る舞いが相手の心に安心を生み出している。

法人は 25 歳になった。この間、私たちは何を生み出してきたのだろうか。これからも「幸せ」を生み出すには、エンジンを回し続けることだ。

その大切なものの価値に気が付く者と気が付かない者がいる。気が付いたほうが、幸せだ。それだけを追い求めると、幸せも大海の一滴のように見つけられない。しかし、心を開けば、いつでもそこにある。エンジンを回そう。幸せを社会に生み出そう。

日本庭園だった池を潰して畑にしてしまった母は、今日も雑草を抜いている。「八九三（やくざ）な身体になっちゃった」と言いながら、思うように動かない身体で庭に出る。

しゃがみこむ小さな背中から教えられることは、まだまだ多い。



デイセンターふれあいの支援について

デイセンターふれあい
副施設長 白田 清一

デイセンターふれあいでは「住み慣れたこの街で、いきいきと暮らす。それぞれの方の自律を目指して」の理念の基に「安心できる環境で主体的に暮らす」を土台として ①社会の一員として、地域と繋がって暮らす。 ②健康で元気に暮らす（ヘルスケア） ③楽しみを発見しながら暮らす（FUN）の三つの柱でご利用者の支援をしています。加えて制度や障害者権利条約の中で重要性が指摘されている ④意思決定支援について考え実践につなげることにも取り組んでいます。

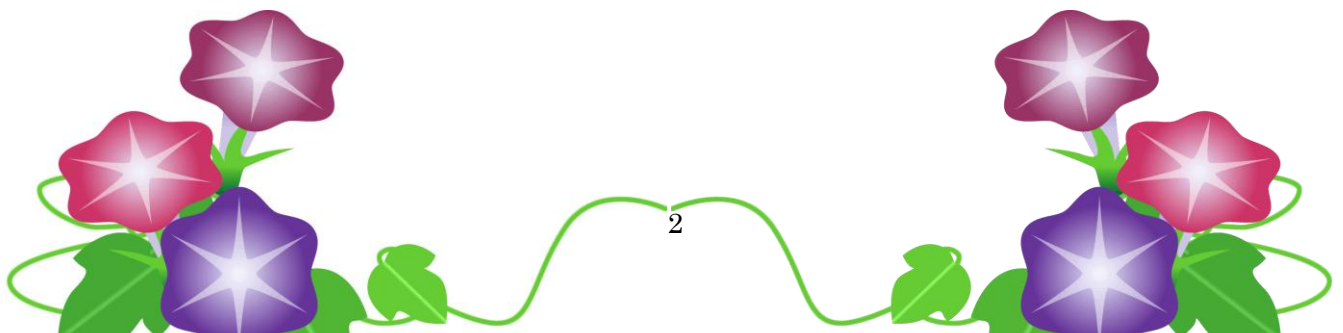
①は、創作活動から販売までの総称DCFブランドを立ち上げて行っています。体の動きに大きな制限のある方々が可能な動き、わずかな動きを活かして創作活動を行っています。私たち職員は、手足、指先の些細な動き、目の向かう方向、顔の表情、身体の揺れ、声といった何気ない動作の中に、ご本人の意思や表現の意味を見出すことに努めています。

そのようにして生み出された作品は、利用者の社会参加、地域とのつながりを意識しながら展示や販売を行っています。地域のセレクトショップに作品を置かせてもらったり、ギャラリーを借りての作品展の開催などがそれです。作品展の前にはチラシを作ってご利用者と一緒に宣伝活動に出かけたり、当日は店番もします。ふれあいは生活介護の事業所ですが一連の創作活動を「仕事」として位置付け、販売した売上げは少額ではありますがお給料として還元しています。お金のことだけでなくこれら地域との繋がりは、次の活動に向かうモチベーションとなっています。広い意味で「自分を働かせる」が今年度の重点目標です。

②はすべての活動の基本となるものです。リハビリ、リラクゼーション、健康タイムなどの活動の他に、医師やPTなど専門職の力もお借りしながら日々の健康管理、摂食口腔ケア、ポジショニング、排泄介助など、すべての場面で専門性の向上に努めつつケアに当たっています。

③は、美しい景色を見たり、新しい出会いをすることを通して心地よい気持ち、感動する気持ちを体験できるように努めています。ご利用者と支援者で楽しみを発見しながら暮らすことを目的として、様々な余暇活動を提案し実施しています。外出活動や行事などもこれに当たります。

④では、意思疎通の難しい重度重複障害のある人の意思決定を考える時に、ご本人へ情報をどのように伝えるか、どのように意思を表現してもらうか、表出された言動がご本人の意思だとどうやって確認するかなど、多くの課題があります。意思決定はとても大切なことです。とは言え、人は決して自分以外の者になることは出来ません。そもそも他人の真の意思などわからないとも言えます。意思とは、不明確で不安定なところがあり、意思を表明してもそれが真の意思なのか、変わらないものなのかどうか、本人すらわからないものなのかも知れません。本人がどう思っているのか、どうしたいのか「関心を持って関わること」「些細な変化を見逃さないこと」それを続けることが大切なことだと思います。そのようなかわりの中で、その人の意思をその人と共に明らかにしていくことにチャレンジし続けていきたいと思っています。



5月25日(木)

関前地域ケア会議

今回の地域ケア会議では関前地域で課題となっていることを関前で活動している各事業所、近隣住民の方々と話し合いました。武蔵野市いきいきサロン事業「なのはなサロン」をさらに発展させることや、年を重ねると生じる問題を地域で考え他人事としてとらえるのではなく自分たちのこととして考えてもらい、地域に住む高齢者が更に元気になるための方法について協議しました。健康、集客、プログラム、ボランティアなどそれぞれの思いを活発に話し合い、サロン事業を通じて、高齢の方でも住み慣れた地域で元気に暮らしていける取り組みを今後も継続していけたらと思います。

(菊池 政之)

桜堤ケアハウス在宅介護支援センター



6月4日(日)、11日(日)

だるまワークショップ

だるまの顔入れワークショップ、大盛況でした！6月4日(日)は井の頭公園で「さんかくフェスタ」、6月11日(日)にはクリーンセンターでの「エコマルシェ」。両日ともに完売し、計120個のだるまが子どもたちの手に渡っていきました。山びこの活動をもっと知ってもらいたい、そんなことを思いながら、だるまの量産はもちろん、今回はお客様の目につきやすいよう、ご利用者の皆さんとのぼりを作成。だるまの柄を染め、旗を縫っていき…グループのメイン活動を越え、ワークショップに向けて皆さんと取り組んできました。たくさんの方に見てもらえたことに、喜びでいっぱいです。これからも協力して地域とつながるだるまづくりに取り組んでいきたいと思っています。

(中村 文栄)

デイセンター山びこ



6月17日(土)

深大寺で楽焼体験！

「みんなで交流・楽しく体験！」をテーマに、びーとでは外出行事を年2回程企画しています。今回は深大寺楽焼体験。好きな形のお皿を選んでもらい、自分で考えてきた絵や模様をお皿に描きました。最後に作品を受け取る時は、「これを父の日のプレゼントにするんだ～」と笑顔で話す方もいて、皆さんの思いがたくさん詰まった作品ができました。

昼食後は深大寺周辺の散策。事前に時間と待ち合わせ場所を説明し自由に過ごした皆さん。行きたい場所、やりたいことを自身で考え、共に参加する仲間と分かち合う機会となりました。

(大久保 さらさ)

地域生活支援センターびーと



6月20日(火)

ヘルメット防災訓練

武蔵野福祉作業所では、今年度から作業場の机の足元に一人一個ずつヘルメットを置くことにしました。

置いておくだけではいざという時に使う事が出来ないので、一人一人がご自分でヘルメットをかぶれるように月に一度ヘルメット訓練を行っています。

ヘルメットをかぶる事が初めてのご利用者もいるため、自分の頭に合せベルトを調節し、あごひもをとめることに、苦戦している様子もみられましたが、繰り返し練習することで少しずつできるようになっています。今後も防災意識を高め、取り組みを継続していきたいと思っています。(川副 未琴)

武蔵野福祉作業所



作業机の下からヘルメットを取り出す様子。

6月21日(水)

なごみの家の夏休み

なごみの家では毎年夏休みの受付についてご案内を出しています。夏休み期間中(7月21日～8月31日)の宿泊利用の予約の取り方や定時薬の忘れ物、体調不良の際の注意などが書かれています。学生の方が夏休み期間を利用して外泊体験の希望が入ってくることもあり、予約件数は通常月よりかなり増加します。いつもより多い予約に対応するために、皆さんになごみの家の利用状況や利用方法をご理解いただくことで、スムーズな受け入れを可能にしたいと思っています。

なごみの家スタッフの夏休みは、夏の利用のピークが過ぎてからになります。

(大澤 昌之)

なごみの家



事務局より 7月の予定

4日(火) 施設長会議

7日(金) 武蔵野アール・ブリュット 2017 7日～10日迄

18日(火) 誰でも相談室

20日(木) 中央衛生委員会

29日(土) 初級2年目研修、普通救命講習

31日(月) 経営企画会議

<編集後記>

今年はしとしとよりもしっかりと降る梅雨となりました。梅雨が明けると一気に暑くなり本格的な夏がやってきます。武蔵野アール・ブリュットでは当法人のご利用者の作品も展示されます。是非ご覧になって下さい。

デイセンター山びこ 笠原 匠充

